

BOOK BOATS







若葉台団地

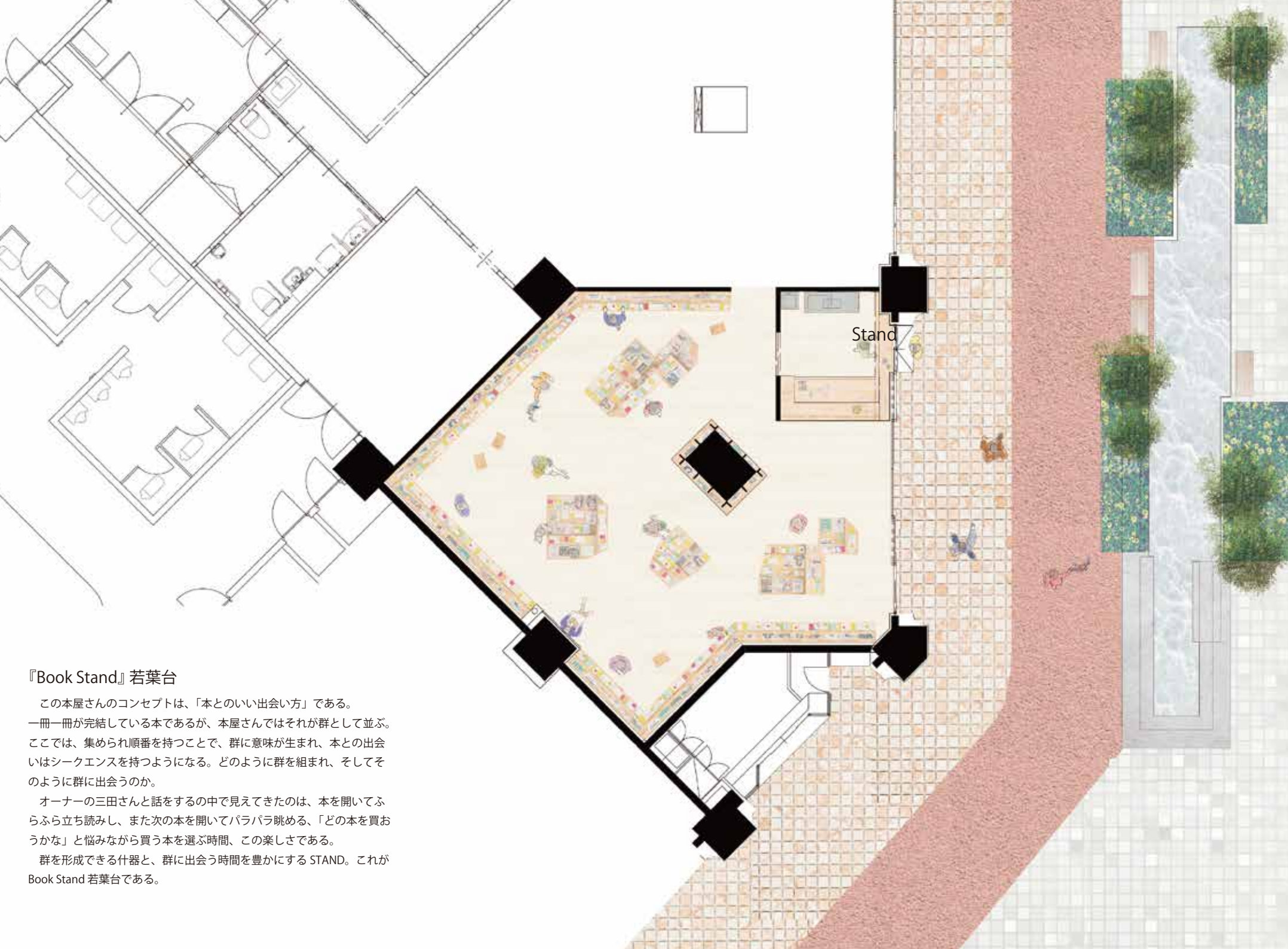
1970年代、神奈川県横浜市旭区に計画された若葉台団地は、現在15,000世帯が住まう分譲・賃貸団地である。団地の中心地は、商店街、広場、グラウンドが連続し、団地に住まない周辺地域の住民も集まるような場所になっている。まちづくりNPOが地域運営を行い、掃除活動や入居者募集運動、イベント企画などを行い、団地を盛り上げようという動きが盛んだ。

商店街と本屋さん

この商店街には、八百屋さん、揚げ物屋さん、蕎麦屋さんなどの専門店がある一方で、イトーヨーカドーやlotteriaなど大型チェーンも入っているが、地域住人の応援もあり、小店舗も潰されず共生している。これらのお店は、路上にも商品を広げ、商店街は物があふれる場所になっている。ここには以前、紀伊國屋が存在していた。しかし、団地の高い賃料に耐

え切れず、地域住民に惜しまれながらも閉店し、今日まで街の本屋さん不在となっていた。そこにNPOの企画が立ち上がり、空き店舗スペースに「地域交流スペース」「小本屋」を併設することとなり、Book Truckの三田さんに声がかかった。





『Book Stand』若葉台

この本屋さんのコンセプトは、「本とのいい出会い方」である。
一冊一冊が完結している本であるが、本屋さんではそれが群として並ぶ。
ここでは、集められ順番を持つことで、群に意味が生まれ、本との出会いはシークエンスを持つようになる。どのように群を組まれ、そしてどのように群に出会うのか。

オーナーの三田さんと話をする中で見えてきたのは、本を開いてふらふら立ち読みし、また次の本を開いてパラパラ眺める、「どの本を買おうかな」と悩みながら買う本を選ぶ時間、この楽しさである。

群を形成できる什器と、群に出会う時間を豊かにする STAND。これが Book Stand 若葉台である。



WS 時

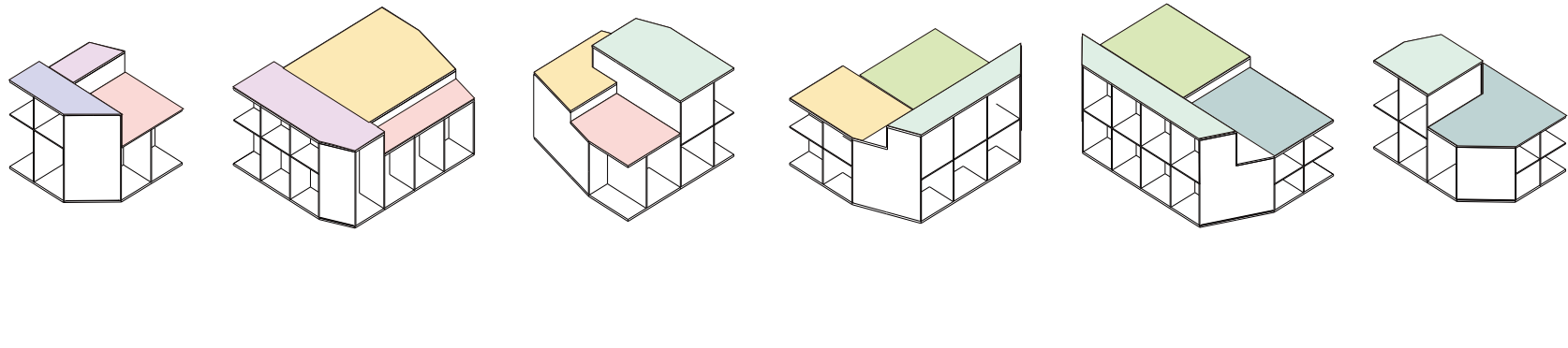


講演会時



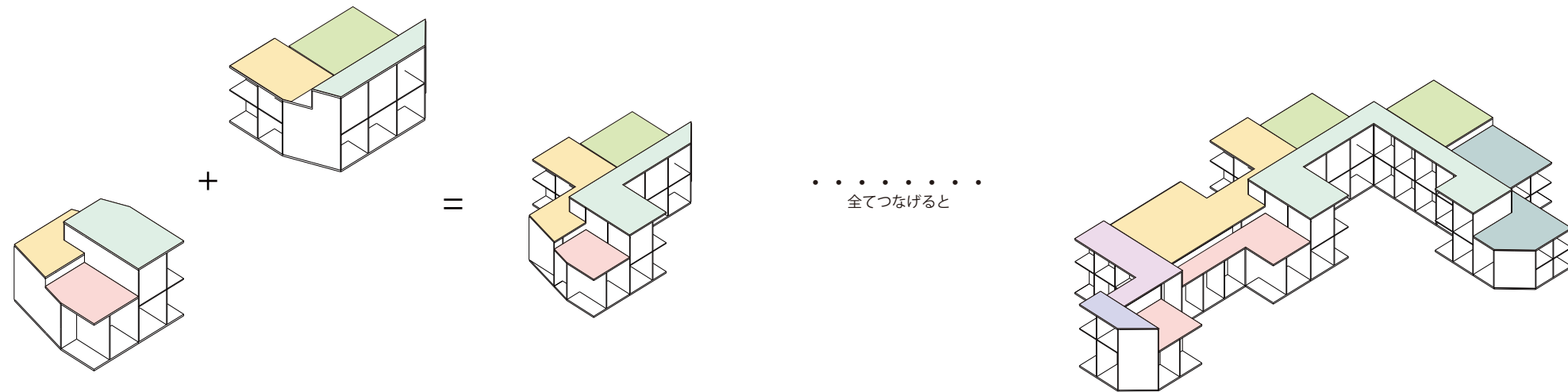
高さのズレた6つの移動式什器

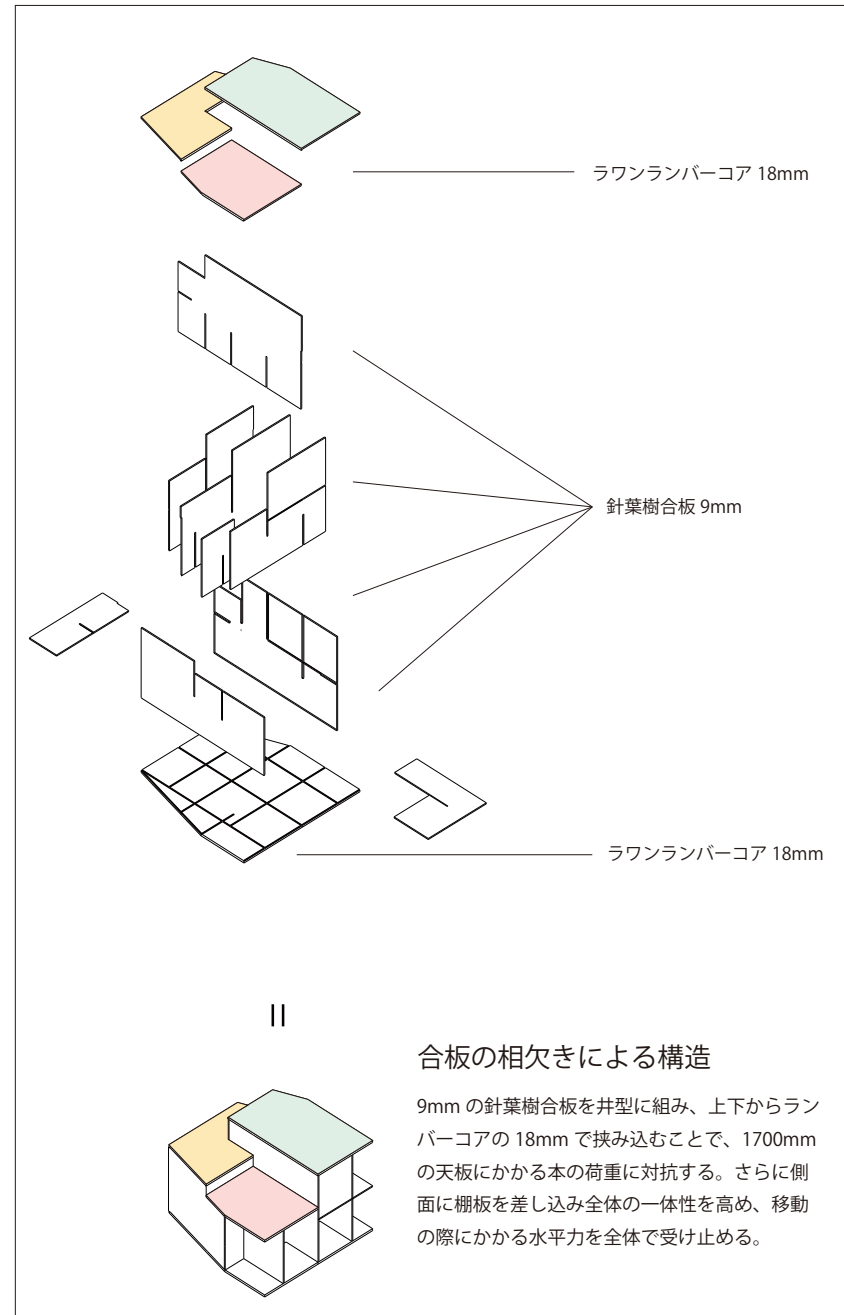
高さの異なる6つの什器を計画した。一つの什器の中に、3つの天板がありそれぞれに異なる群が形成される。一列に並んだ、一面に広がったり、特集の組み方や新刊の配置にきっかけをつくる。



隣と接続する什器

これらの高さがズレた什器は、隣の什器と接続し、天板を広げていく。
L字形になった天板は、店舗内を緩やかに括りブースを形成する





学生＋若葉台団地

今回のPJは個人的なつてではじまったPJであるが、三田さんとの「学生を巻き込んで行いたい」という話から大きくなり、7名の学生と1名の事務所勤務員で勤められた。設計から施工まで全て、このチームで行っている。







くっついたり、離れたり。

